

情勢報告

第6回土佐鷹普及推進協議会を開催



目標面積まで拡大しなかった原因
について協議中

5月28日に土佐鷹普及推進協議会が行われたが、協議会の内容は今作の販売状況や契約販売の取り組み、来作の栽培予定面積、栽培講習会などの各地区の取り組みなどについて報告が行なわれた。また22園芸年度に目標としている30ha（5月27日現在の予想面積は約23ha）に達しなかった原因・課題とそれに対する対策や取り組みについて関係する機関が作成したものを協議した。

主な課題としては、担当者の指導力不足により摘葉や灌水方法など土佐鷹の特性にあった栽培技術が徹底されていないことや、JA全体としての推進ビジョンがないことなどがあげられた。22園芸年度を重点推進年度と位置づけ現地検討会などでの栽培指導の徹底や担当者研修及び推進ビジョンの作成と周知を行うこととした。

今後は、23園芸年度の目標面積達成に向けて、この会で協議した対策を実行できるように取り組んでいく。

奈半利町大原・西ノ平地区集落営農推進委員会の開催（こうち型集落営農への取り組み）



集落アンケート調査（案）を
検討する推進委員さん

奈半利町大原・西ノ平地区は、本年度のこうち型集落営農モデル育成事業のモデル集落に選定され、今後3年間で集落営農ビジョンの策定や集落営農組織の設立、協業化による園芸品目等の導入に取り組むこととしている。

6月8日には、集落代表、奈半利町、JA支所、振興センターが参集し、第1回目の集落営農推進委員会を開催。今後3年間の事業計画と平成21年度の活動スケジュールを確認し、併せて集落営農ビジョンの策定に向け、集落住民の意向を把握するための集落アンケート調査について検討を行った。

振興センターでは、集落アンケート調査の集計や分析、SWOT分析などを通じ、集落営農ビジョンの策定と集落営農組織の設立に向け、関係機関とともに支援をしていく。

土着天敵の産地間受給（産地間リレー）



園主さんと天敵の活用について
情報交換

6月13日に嶺北地区の生産者3名が、安芸市下山のハウスに定着したクハヨウタンカシメやカハコカシメを自分のほ場に移すため採取にきた。この取り組みも4年目となり、作物のこぎ上げ前のほ場で土着天敵が多く定着している農家から、「どこかほしい人はおらんろうか」と振興センターに声がかかるなど定着してきた。

また、産地間の取り組みや天敵に影響の少ない農薬の使い方など積極的な意見交換ができていた。

振興センターでは、今後も産地間の連携をとるとともに、この活動を支援し、秋には安芸地区生産者が嶺北地区に天敵を採取にいくよう計画をしている。

地域ぐるみでハスモンヨトウ捕獲大作戦！



自らのハウスから持参し、土着天敵を紹介する青年農業士

芸西村の青年農業士は、芸西小学校と協力し小学生 3 年生とフェロモントラップを用い、ハスモンヨトウを捕獲する取り組みを行っている。6 月 15 日に行われた一回目の授業では、振興センターによる芸西村の農業とハスモンヨトウの生態についての授業のあと、青年農業士がピーマンの生育や土着天敵を使って害虫を退治していることを、ユーモアを交えながら紹介した。児童からは「なんで虫は、トラップの場所がわかるが？」などの質問がだされ、一つ一つ農業士が回答した。19 日の参観日には保護者とともに、ハスモンヨトウ捕獲用のトラップを作成した。今回制作したトラップは 9 月に村内に設置、11 月に回収する予定。

今年で 5 年目となる取り組みで、今後も青年農業士がさらに主体性をもって活動できるように支援していく。

中芸地区野菜園芸研究会天敵学習会



天敵温存ハウスと学習会

6 月 23 日中芸地区野菜園芸研究会天敵学習会があった。
中芸地区では土着天敵を導入して成功した人が増えつつあり、関心が高まっている。

この日は唐浜の温存ハウスと西島にある温存ハウス、スワルスキー定着圃場の現地を見学した後、農技センター研究員と病害虫専技をアドバイザーに迎えスワルスキーとタバコカスミカメの生態を勉強した。

収穫が忙しい中、30 名以上の参加があり、質問も多く出ていた。

また、購買担当や営農相談員の勉強会としても声がけをし 4 名の参加があった。

今後、さらに意識啓発を行って、中芸のナス農家すべてが取り組めるよう活動したい。

J A 土佐あき東洋支所柑橘部役員会（ポンカン産地のまとまりづくり）



議論する柑橘部役員

5/27・6/18 に J A 土佐あき東洋支所柑橘部役員会が開催された。

会議の中では、選果機の是非の検討や増加する J A 出荷量に見合う販路の開拓など、産地が抱えている問題点に対してさまざまなことが議論された。

役員からも徐々に意見が出てくるようになり、部会役員会として機能する状況に変わってきた。

振興センターでは、年間を通じた活動が一つの形になるよう、今後も支援を続けていく。

香川県農業試験場での花き視察研修



日射制御型拍動自動灌水装置に見入る。

6月18日にJA土佐あき花卉部会(近藤誠夫部長)の年に1回行われる県外研修が香川県農業試験場(以下、香川農試)で22名の参加により開催された。

①香川農試・園芸総合センターでは、シンテッポウユリ、ブルースターも展示され、親近感が湧いた。②香川農試・花き部門では古市研究員から日射制御型拍動自動灌水装置について、省力化でき、収穫期間の前進化や切り花品質が向上するとのことで実際にその装置を見学したが小ささに驚いた。③香川大学農学部・深井教授から「今後の花き生産戦略と高鮮度流通の現状と明日」というテーマで講演していただいた。スライドを使った世界の花き情勢等、わかりやすいものでさすが大学の先生という評価が高かった。

日帰りでの強行軍であったが、新しい知識に触れて、皆何らかの成果を得た研修であった。